

論文特集「人工知能学会創設30周年記念論文特集」にあたって

矢入 健久
(東京大学)

栗原 聡
(電気通信大学)

山川 宏
(株式会社ドワンゴ)

1. 本論文特集の目的と経緯

本論文特集は人工知能学会創設30周年記念事業の一つとして、2014年の秋頃より栗原前編集委員長を中心として企画が始められた。当初の編集委員会では、論文テーマを限定すべきかどうか、投稿者の年齢上限を何歳にするか、などについてさまざまな意見が出たが、広い意味での人工知能研究の最前線で活躍する若手研究者から質の高い論文を集めるという方針が支持された結果、「人工知能に関するすべての分野を対象とし、第一著者が40歳未満である」という投稿条件が決定された。また、今回の記念論文特集企画の「目玉」ともいえる最優秀論文への副賞金については、学会内外に大きなインパクトを与えるという意図から、「30周年にちなんで30万円」という破格の額を編集委員会が提案し、理事会によって承認された。そうして2015年7月、本特集論文募集は期待とともに学会誌会告、学会Webサイト、メーリングリストで一斉に告知されることとなった。

2. 投稿論文総数とテーマの傾向

当初の投稿締切日は2015年11月初旬に設定されていたが、延長を求める要望が多数寄せられたため、1か月間の延長を行った。その結果、最終的には編集委員会が当初の目標としていた30件を超える32件の投稿を集めることができた。投稿時に著者が申告した「該当分野」の集計内訳を見ると、「自然言語処理」および「ヒューマンインタフェース・教育支援」がそれぞれ6件で最も多く、「AI応用」5件、「機械学習・データマイニング」、「基礎・理論」各3件がそれに続いた。実際には、ほとんどの論文が複数の分野に関連しており、全体として現在の人工知能研究の多様性を反映している印象である。一方で、少し意外なことに、現在大きな注目を受けている深層学習に関する論文は1件に留まった。

3. 査読経過と採録論文数

本論文特集では、栗原前編集委員長、山川現編集委員長、矢入担当委員の3名がエディタを担当し、査読の質と公平性および迅速性を担保するため、50名以上の新旧編集委員に対して専門分野に基づいて査読を依頼した。各論文ごとに初回は2名以上、判定が割れた場合には第3査読者を割り当て、全査読者の判定結果・根拠をエディタが精査し、合議によって最終判定を行った。その結果、10月14日現在、採録11件、条件付き採録1件、査読中3件となっている。また、残念ながら本特集に関しては不採録になったものの、査読コメントに基づいて修正され、一般論文として再投稿されている論文もある。採録決定された論文を対象として、編集委員会内で厳正な優秀論文賞の選定を行い、11月11日に開催される30周年記念式典において表彰が行われることになっている。

また、優秀論文は本学会誌の新年号にも全文掲載される予定である。

4. おわりに

今回の30周年記念論文特集には、多くの若手人工知能研究者から非常に質の高い論文が寄せられ、企画として成功であったと考える。投稿論文の全著者に厚く御礼を申し上げたい。また、自身の研究や職務などで超多忙の中、非常に丁寧な査読をして下さった新旧の編集委員にも心から感謝を申し上げる次第である。本論文特集は本学会30年間の成果、すなわち「花」あるいは「実」といえるが、ここから次世代の「種」が生まれ、人工知能研究のさらなる発展につながることを願う。